

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第22号 2024年 10月



— 目次 —

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
中村宗一郎先生 学長のご挨拶	3
伊澤淳先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	4
令和5年度 信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞	5
海外研修報告	8
活動支援報告	12
卒業生の声	15
総会記録	17
信州大学医学部保健学科同窓会会則・細則	19
同窓会役員	20
編集後記	20

2024
第22号

あの「松本サリン事件」って知っていますか？

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(信州大学名誉教授／医学部委嘱講師)

新規創設された「保健学科同窓会若手優秀論文賞」には、応募論文13編の中から受賞者4名が決定された。第一回授賞式をR5年度卒業／修了祝賀会に併せ挙行し、受賞者各位へ「表彰状」と「記念の盾」が授与された。そして、受賞者4名による「受賞報告会」を去る8月7日に地域保健推進センターに於いて対面とZoomによるハイブリッド開催し、その模様はホームページで暫くの間、録画での視聴を可能にした。今年度の応募が既に開始されています。奮ってご応募くださるようお願いいたします。「若手優秀論文賞」の受賞が、広く同窓生にとって目指したい“憧れのステータス”となっていくよう祈念するものです。

1994年6月27日深夜から28日未明にかけ悲劇が起きた。8名もの尊い命を奪い、591名を負傷させたあの日から30年が経った。信大の学生2名が命を落とし、内1名は、医学部医学科6年生だった。また、信大ICUに搬送された医療短大衛生技術学科3年生は、幸いにも退院し通院治療となった。彼女は附属病院中央検査部（中検・現臨床検査部）血液検査室で臨地実習の最中だった。当時の私は、中検の臨床検査技師長として彼女に関わってから、ずっと気に掛けていた。彼女は後遺症に悩み、勉学に集中できず、国家試験にも失敗した。私が医療短大に助教授として赴任する2年前のことだった。

事件の第一通報者の河野さんは、被害者にも関わらず、信濃毎日新聞を始め、全国の殆どどのニュースメディアは河野さんを容疑者と決めつけた報道を繰り返した。この加熱報道は、翌年の地下鉄サリン事件勃発まで半年以上も続いた。この間の河野さんご一家に対する言葉（電話）や活字による攻撃の酷さは想像を超えていた。河野さんには奥様澄子さんとお子様三人がいた。澄子さんと長女（高3）はICUに搬送され、長女は助かったが、意思疎通もできなくなった澄子さんは14年もの療養の末に亡くなられた。

植物状態で物言わぬ澄子さん、その介護を懸命に続けながらも悩み苦しむ河野さん。そして、多感な思春期に事件に遭遇したお子様三人も、深い「心の傷」を負い、犯人扱いされる日々の中にいた。河野さんの次男と

私の娘は同じ中学の同じクラスの同級生だった。澄子さんと私の家内はPTA活動を介してよく知っていた。娘は、「河野君が可哀そう!」と、よく言っていた。

医療短大が医学部保健学科への改組へ

向け始動開始した頃、私は衛生公害研究所（衛公研・現環境保全研究所）の外部評価委員を拝命した。その最初の委員会終了後に、旧知の仲の村松部長（感染症部）と畑山所長が研究所内を案内してくれた。畑山所長は信大第一外科講師からの着任で、以前からよく知っていた。なお、畑山所長のご子息は短大理学療法学科学生で、奥様は、医療短大後援会会長で、当時総務委員長で後援会を統括する立場の私は、「医療短大後援会」を改組し、「保健学科同窓会」の新規設立を画策しており、折に触れ畑山所長の奥様とは丁寧な情報交換をしていた。畑山所長は、「原因毒物の正体サリンは、当研究所技師の〇〇〇君が、この高速エキクロ（HP-LC・高速液体クロマトグラフィー）で解析して同定した」と誇らしげだった。標準物質のサリンが入手不能のなか、得られたマススペクトルだけのデータから、迅速に分析結果を公表した。事件発生数日後のことだった。そして、直ぐに全国放送のNHK報道番組で、信大某学部の某教授による「サリン生合成は簡単ではなく、原因毒物がサリンであることは疑わしい」との見解が流れるなど、地方衛公研の一技師のデータと解析結果は、すんなり受け入れられず、懐疑的な報道に溢れていた。でも、程なく衛公研の技師の優秀さと同時に衛公研の実力が知れ渡ることになった。私が担任だった教え子（保健学科一期生）が、今その環境保全研究所で活躍していることを嬉しく思っている。

中村学長は、信大ホームページにサリン事件犠牲者への追悼文を掲載した。松本サリン事件から30年が経過し、私も当時を静かに想起してみた。



地域中核研究大学 J-PEAKS の一員としての信州大学の役割、使命

信州大学 学長 中村 宗一郎

信州大学保健学科同窓会の皆さまにおかれましては健康やかにお過ごしのことと存じます。日頃より一方ならぬご支援、ご協力を頂いておりますこと、まずはこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、早速ですが、この機会を利用して、信州大学の状況を皆さまと共有できればと思います。ご存知のように、信州大学は「グレーター・ユニバーシティ・ビジョン(Vision for Greater Shinshu University, VGSU)」という大変大きな志を掲げています。これは、多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「人」や「知」を結集、共有、活用することで新たな価値を創出し、地域の発展に貢献するエコシステムの構築を目指すものです。VGSUでは、地域の活性化に貢献するため、「Extend(伸ばす)」、「Expand(広げる)」、「Enrich(豊かにする)」という三つの「E」をキーワードに掲げています。これは本学の価値創造のステップでもあり、地域の発展をけん引し、豊かな社会とより良い未来を創ることを意味します。信州大学は、大学の使命である教育、研究、そして社会貢献における本学独自の特色や強みを伸ばし、地域の課題を解決していきます。狭隘で近視眼的な視点での地域振興は目指しません。地域貢献を視野に入れながらも、広く世界に目を向け、未来へと繋がる教育研究を志向し、その成果を地域に還元することによって、初めて地域の真の知の拠点になることができると信じています。

私は、かねてより地域の大学の役割は、以下の5つの機能にあると考えてまいりました：

1. 学びの機能(Learning opportunities)
2. 寄り添う機能(United under mutual understanding)
3. つなぐ機能(Connecting)
4. 知の拠点機能(Knowledge base)
5. より良い未来を産み出す機能(Yield the better future)

私は、この5つの機能の頭文字を取って「LUCKY(ラッキー)」と呼んでいます。地域の国立大学には、これらの機能をバランスよく発揮し、地域の中心にどっしりと構え、地域からの強い信頼と深い共感の下に、共に発展することが地域の大学の役割・使命と考えています。そのような思いから、冒頭に紹介した信州大学の新しい行動指針ともいうべきVGSUが策定されました。本学はこのVGSUの信念に基づき、地域中核・特色ある研究大学としての歩みを続けてまいりました。

た。その結果、今年1月、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」のJ-PEAKS研究大学群12大学の1つに選定されました。J-PEAKSは、大学ファンドによる国際卓越研究大学と対をなすものと目されています。



この枠組みに認定された大学には、日本全体の研究アクティビティを強化・向上させ、世界における日本のプレゼンスを高めることに加え、革新的な価値創造のフロントランナーとしての使命を果たすことが期待されています。本学の「水及び水由来グリーン水素」に関する研究実績が評価され、「この研究分野ならこの大学」として選ばれました。信州大学には、今、「水の惑星地球における水のサステナビリティの維持向上」という重要な任務が課せられています。これには、光触媒による水から水素の生成、さらにはメタネーションによって炭素を固定する(人工光合成)という究極のカーボンニュートラル技術も含まれています。サステナビリティトランスフォーメーションが叫ばれている今日、信州大学に対する社会からの期待は極めて大きなものがあります。

私たちは、今回の取り組み、『水とエネルギーのサステナビリティの仕組み構築』という地球規模の課題に真正面から取り組み、その過程で地域を活性化し、豊かにしてまいります。J-PEAKS研究大学群の一員となった信州大学は、長野県だけでなく、長野県を取り巻く県や圏域とも広く連携し、地方創生はもとより、わが国の産業振興に貢献します。大学を中心に新たな産業が集積し、イノベーションが生まれ、結果として地域が一緒に発展するというエコシステムの構築を本学がけん引することで、この地域を豊かにそして元気にしてまいります。信州大学はこれからも総合大学の強み、総合知をいかに発揮し、地域の中核大学としてこの地域の発展を本気で担っていく所存です。

文末ではございますが、保健学科同窓会の皆さまお一人おひとりのご健勝と知的躍動を心よりご祈念申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

命に大小があるか？

信州大学医学部保健学科同窓会名誉会長 伊澤 淳

(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学領域 教授／保健学科同窓会名誉会長)

小暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。第三十三候(小暑の末候)は、鷹のヒナが巣立ち狩りの技術を獲得する「鷹乃学習(たかすなわちわざをならう)」です。新社会人となった卒業生に母校からエールを送ります。

保健学科では令和6年度の新入生を迎え、私はお陰様で任期の2年目を順調にスタートし、8月に第1回保健学科同窓会若手優秀論文賞の受賞者講演会の開催を予定しております。一方、世界各地では戦争・紛争により絶え間なく命が失われており、強い危機感とともに解のない疑問、漠然とした不安が生じることは多くの皆様と一致する心象ではないでしょうか。

さて、「命に大小があるか？」と問われるならば、「ない」との回答が一般的であるはずですが。私はどの1つの命もかけがえのない存在とのメッセージ「Every single life matters」を保健学科のホームページに掲げており、この実践を心がけています。ところが、この問いの答えは立場によって全く異なることを、今年度の保健学科・保健学科同窓会主催市民公開講演会(令和6年6月29日開催)を通じて認識しました。講師は、宮城県石巻市立大川小学校に娘さんが通っていた佐藤敏郎さんでした。東日本大震災の日、地震の51分後に津波が大川小学校に到達して74名の児童と10名の教員の命が失われました。女川第一中学校で自宅に帰らずに勤務していた佐藤さんが、娘さんの悲劇を聞いた瞬間の衝撃が目の前にありました。佐藤さんは「小さな命の意味を考える会」の代表

として、避難開始までの意思決定が遅れた問題に限らず、組織行動におけるリスク予測と対策、危機時のマネジメント、事後の検証と学び等の広い観点から、大きな命の伝承を継続されていました。論点は責任追及では

なく、また再発防止や災害対策を目指すことよりも遥かに、私たち一人ひとりが自分の日々に対してどのようにあるべきかを深く考えさせる内容でした。

この素晴らしい講演会に対して保健学科同窓会よりいただいた長年のご支援と、関係者各位のご尽力に感謝いたしますとともに敬意を表します。国立大学では教員数が削減される一方、競争原理が導入され成果指標が評価される厳しい時代です。この状況は私の危機感、解のない疑問と漠然とした不安を増幅させるのですが、教職員一同が力を合わせて「未来をひらく」(大川小学校の校歌です)ほかございません。最後になりますが、保健学科同窓会会員各位のご健勝とご自身の専門領域におけるご活躍を願いますとともに、国内外のリーダーとなる次世代の医療人の発展を期待し、引き続き皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

ご挨拶

中村 慶佑

(理学療法学専攻 応用理学療法学領域)

今年度4月より応用理学療法学領域の助教に着任しました中村慶佑と申します。大学と大学院で11年間学んだ母校で、教育・研究に携わることができ、大変うれしく思います。



私は愛知県豊橋市で生まれ、大学進学をきっかけに松本市に移り、城下町の風情を残す歴史的な町並みと自然豊かな松本で20年間過ごしてきました。大学卒業後は松本市立病院に就職し、仕事をしながら本校で保健学博士号を取得しました。

私の研究分野は内部障害と地域リハビリテーションです。糖尿病や腎症を中心とした内部障害患者に対する運動負荷試験に関する研究や、松本市と共同で高齢者のフ

レイル対策に関する研究を行ってきました。高齢化が進む中、多くの人が健康で長生きできる社会を目指し、理学療法士として研究を通じて新たな知見を積み上げ、新しいリハビリテーションの構築と実装に取り組んでいきたいと考えています。

また、大学・大学院教育の目標として、地域社会に貢献できる、将来の長野県や日本のリハビリテーション医療を担う人材を育成していきたいと考えています。学生とともに学び、考え、創造し、常にチャレンジを続けていきたいと思いをします。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

ご挨拶

大塚 リサ

(作業療法学専攻 実践作業療法学領域)

2023年4月から助教に着任しました保健学科4期生の大塚りさと申します。よろしくお願いいたします。

楽しくてあつという間の大学生活後、作業療法士として病院に勤務する中で、もっと患者さんの役に立つ臨床がしたいと思うようになり、



大学院に進学しました。ライフイベントが続いたため、卒業までには大変時間を要しましたが、粘り強くご指導くださった先生方に深く感謝しております。前職は、長野JA厚生連北アルプス医療センターあづみ病院です。病窓から北アルプスの見える素敵な病院です。作業療法士としても、社会人としても、未熟な新人時代から、温かくのびのびと育てていただきました。これからは、多くの方にいただいた温かさを、学生の皆さんにお返しできたらよいなと思っております。

現在は、作業療法学専攻のSNSでの広報活動に関わっています。学内の様子、作業療法に関する事等を、発信しております。最近になって、静止画よりも、動画の方がフォロワー外の閲覧数が増える(?)と気が付き、動画の投稿を増やしてみたりと試行錯誤しています。また、同学科看護学専攻と理学療法学専攻もSNSをなさっています。つい、他専攻のセンスのよい投稿やいいね数の多さが、気になる今日この頃です。もしよろしければ、各専攻ともにSNSを頑張っておりますので、応援くださいますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞

Title : **Insufficient social support for fathers of children with developmental disorders**

受賞者：石田 史織 (看護学専攻)

掲載誌：Humanities and Social Sciences Communications 9, 14; 2022

この研究は、発達障害児の父親に対する社会的支援の実態を明らかにすることを目的としています。発達障害児は生活上様々な困難を抱えやすく特別な支援が必要と言われており、その親は大きな負担を抱えるため適切な家族支援が求められています。

先行研究では、父親の積極的な育児参加が配偶者のストレス軽減等に重要であることが示されていますが、発達障害児の父親に関する研究は少なく根拠に乏しいのが現状です。そこで、療育センターに通う未就学児の父母を対象に調査を実施し、父母が受ける情理的支援、情緒的支援、評価的支援、道具的支援について比較しました。

その結果、父親は主に配偶者から支援を受けていました。道具的支援のみ職場の上司や同僚から支援を受けていましたが、母親に比べて外部からの支援が少な

いことが明らかになりました。また、父親は勤務状況等の制約によって専門家の支援につながらないという困難もあり、父親への支援の拡大や、仕事の制約に配慮した柔軟な支援の必要性が考えられました。さらに、父親同士のつながりや他の家族との交流も重要であることが示されました。これらのことから、父親のワークライフバランスを考慮した柔軟な支援が必要であることが示唆され、父親の積極的な参加を促すための新たな支援プログラム開発の重要性を提案しました。





本調査において最も苦慮したことは、調査協力の承諾を得ることでした。発達障害児の父親はこれまでほぼ介入されなかった対象であるため、調査に対して抵抗感が強く当初はほぼ協力が得られませんでした。そこで、調査の意義や必要性を直接説明する機会を幾度も設け、

質疑応答を繰り返す中で納得が得られた結果、十分なデータ収集に結び付けました。苦勞して得られた調査結果が、現在取り組んでいる新たな研究の基礎データとなり成果を生み出すことにつながっているため、インフォームド・コンセントの重要性を改めて認識した研究でした。

Title : Extracellular stimulation of lung fibroblasts with arachidonic acid increases interleukin 11 expression through p38 and ERK signaling.

受賞者：佐々木 奏子 (千葉大学医学部附属病院 検査部)

掲載誌：Biological Chemistry. 2022;404(1):57-69

この度は、若手優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本論文の審査、選考に携わってくださった皆様に深く感謝いたします。

受賞の対象となった論文では、肺線維芽細胞におけるアラキドン酸によるIL-11の発現増加の機構の一端を明らかにしました。本研究は、私が保健学専攻修士課程在学時に行っていたものになります。この期間はコロナ禍真っ只中であり、様々な制限で思うように行かないことも多々ありましたが、沢山の学びを得られた充実した日々でした。研究等ご指導いただきました松田和之先生には感謝に堪えません。

今後も本賞を励みに精進していく所存です。受賞について重ねて御礼申し上げます。

概要

IL-11は、がん細胞の増殖や運動能を調節するサイトカインである。線維芽細胞はがん微小環境に存在し、IL-11の主要な供給源である。IL-11を産生するがん関

連線維芽細胞を含む活性化線維芽細胞は、がんの発生と進行に寄与し、がんに関連する線維化を誘発する。がんでは、脂肪酸組成またはその代謝産物の変化、および遊離脂肪酸の増加が見られる。脂肪酸ががんの発症と進行に及ぼす影響は、まだ完全には解明されていない。本研究では、肺線維芽細胞におけるIL-11発現と分泌に及ぼす脂肪酸の影響を解析し、アラキドン酸(AA)によるIL-11発現増加の機構の一端を明らかにした。

外因性に添加されたAAは、肺線維芽細胞においてIL-11のmRNA発現と分泌を用量依存的に増加させた。AAによるIL-11の増加は、p38またはERK MAPKシグナル伝達経路の活性化に依存していた。さらに、プロスタグランジンE2は、シクロオキシゲナーゼ-2発現の上昇に関連しており、その受容体を介してIL-11の発現増加にオートクリン/パラクリン的に関与した。これらの結果により、AAが不均衡な脂肪酸組成を伴い、がん微小環境における肺線維芽細胞のIL-11増加を誘導する分子のひとつであることが示唆された。

Title : Comparison of the sit-up test and head-up tilt test for assessing blood pressure and hemodynamic responses in healthy young individuals

受賞者：小宅 一彰 (理学療法学専攻)

掲載誌：Blood Pressure Monitoring. 2022;27(2):79-86. doi: 10.1097/MBP.0000000000000570

研究の経緯

起立性低血圧は、将来の健康問題に関連する可能性のある重要な症状です。しかし、自覚症状が乏しいため、早期発見のためには客観的評価が必要です。従来のティルト試験は、ティルトテーブルを用いて背臥位から立位への血圧変化を測定します。安全性は高いものの、ティルトテーブルが不可欠という問題がありました。そこで私は、検査者の介助で背臥位から端座位へ起き上がる際の血圧変化を測定するSit-up試験に注目しました。両試験は姿勢が異なるにもかかわらず、姿勢変化に伴う

血圧・血行動態反応の比較研究は不十分でした。

本論文の概要

本研究では、健常若年者を対象にSit-up試験とティルト試験を行い、血圧・血行動態反応を比較しました。また、各試験で血圧変化に関連する血行動態変数は何かを調べました。

すべての対象者が無作為な順序で両試験を受け、各試験では10分間の安静背臥位後に姿勢を変え、3分間保持しました。試験中は、収縮期および拡張期血圧、



心拍数、1回拍出量、心拍出量、総末梢血管抵抗を測定しました。

その結果、両試験の共通点と相違点が明らかになりました。姿勢変化に伴う血圧・血行動態反応のパターンは類似しており、両試験とも血圧上昇が総末梢血管抵抗

の増加と関連していました。一方、相違点として、Sit-up試験はティルト試験と比較して、姿勢変化時の収縮期血圧の上昇が大きく、心拍数の増加や1回拍出量の減少が小さいことが明らかになりました。これらの知見は、

Sit-up試験の臨床応用に向けた重要な学術的基盤になると考えられます。

その後の研究

本研究成果を基に脳卒中患者を対象とした臨床研究を実施し、Sit-up試験で起立性低血圧の有無を判別するカットオフ値(収縮期血圧 $\geq$ -10mmHg/拡張期血圧 $\geq$ -5mmHg)を明らかにしました(Oyake et al., J Hypertens. 2023)。今後は、対象疾患やサンプルサイズを拡大し、より一般化可能性の高いエビデンスを得るための研究を実施する計画です。

Title : Difference between the Effects of Peripheral Sensory Nerve Electrical Stimulation on the Excitability of the Primary Motor Cortex: Examination of the Combinations of Stimulus Frequency and Duration.

受賞者：佐藤 正彬 (作業療法学専攻)

掲載誌：Brain Sciences. 2022;12(12):1637. doi: 10.3390/brainsci12121637

この度、保健学科同窓会若手優秀論文賞を受賞することができ、大変光栄に感じております。

この論文は、末梢感覚神経電気刺激 (Peripheral sensory nerve electrical stimulation: 以下 PES) が皮質脊髄路の興奮性を高める刺激設定の至適条件を明らかにすることを目的として、健常成人を対象に実施した研究の成果を報告したものです。PESは脳卒中後の運動機能障害を改善させることが期待されていますが、PESを臨床場面で用いる際の適切な刺激設定は明らかにされていませんでした。本研究では、先行研究でよく用いられている3つの異なる刺激周波数 (1、10、50Hz) と3つの刺激時間 (20、40、60分) の計9通りの組み合わせの中から、最も皮質脊髄路の興奮性指標を高める刺激設定をD最適化実験計画法による応答曲面分析と満足度関数を用いて検討しました。実験の結果、満足度関数の値を最大化する刺激周波数と刺激時間の組み合わせは、それぞれ10Hzと40

分であることを明らかにしました。本研究の成果は、脳卒中患者に対するより低侵襲で効果的なPESの刺激設定を明らかにする上での基礎的な知見となり得ると考えています。今後は、本研究の成果を臨床に応用するための研究を進めていきたいと思います。

本研究課題は学部生の卒業研究の一環として遂行してきました。現在は保健学科を卒業し、臨床現場で活躍している複数の同窓生が本研究に携わってくれました。私自身も母校信州大学医学部保健学科を卒業してちょうど10年という節目を迎えましたが、今回、母校の後輩達と協業した研究成果が受賞に繋がり、大変嬉しく思います。

おわりに、本研究に際してご協力・ご指導を賜りました作業療法学専攻の務臺均先生、佐賀里昭先生、岩波潤先生、ならびに研究協力をいただいた同窓生の皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞への応募について

信州大学医学部保健学科と保健学科同窓会は、令和6年度信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞を募集しております。ホームページの応募要項に従って、ぜひご応募ください。

信州大学医学部保健学科同窓会ホームページ ▶ <https://www.mhoken.jp/>



海外研修報告

シンガポール海外研修

看護学専攻 2年 大石 奈苗

研修で学びたいことは2つあった。1つは、シンガポールの先進的な保健医療の仕組みについて。これまでの学びの中で、海外の保健医療の実態を知ることは視野を広げる良い機会だと感じていたの
で、日本との比較を通して新たな気づきを得ることを楽しみにしていた。もう1つは、保健医療を専攻しているシンガポールの大学生の学習方法である。大学生生活も約1年半が経過した現在、専門的な知識のインプットを進める一方で、演習や実習など限られた時間の中で効率的にアウトプットすることの難しさを感じており、他国の学生の学び方を参考にすることで自身の学習に新たな視座を得られるのではないかと考えていた。また、昨年、シンガポール工科大学の学生との交流を通じて、今回の研修では英語でのコミュニケーションにも積極的に挑戦し、国際交流の代表として多くのことを学びたいという気持ちで臨んだ。

見学したいくつかの施設の中で印象的だった、シンガポール国立がんセンターは、シンガポールのがん治療、研究、教育の拠点として機能している。放射線腫瘍学部門ではシンガポール唯一の陽子線治療を実施していることを学んだ。陽子線治療は子どもにも適用できるため、彼らが治療に前向きに取り組めるようにVRや子ども向けの乗り物を活用している点が印象的であった。

シンガポール国立心臓センターは予防から診断、治療、リハビリテーションに至るまで包括的な心臓ケアを提供している。看護部門の見学の中で特に興味深かったのは、患者のニーズにマッチした短時間の滞在で治療を受けることが可能なショートステイユニットの存在である。また、職場の士気を高めるようなサンキューノートの取り組みは、スタッフ間の感謝を可視化することでチーム全体のモチベーション向上に寄与していると考えられ、日本の医療現場にも取り入れる価値があると感じた。

また、シンガポール工科大学の概要説明の中で、学生たちは課題を先にこなし講義を受けるスタイルが定着していると知り、効率的な学習方法が取り入れられていることに感心した。また、シンガポールの医療制度に関する講義では、国全体での健康増進に向けた取り組みが非常に興味深かった。例えば、身近に公園を設置することで運動環境を整えることや、医療・健康に関する情報をアプリで管理できるシステムが、健康促進や効率的なサービスに役立っていると感じた。

現地の方々との交流で特に印象に残ったのは、シンガポールでは仕事に楽しさを見出している点である。仕事を楽しむことで生産性が向上し、結果的に職場の雰囲気や成果に良い影響を与えていると感じた。

シンガポールでの研修を通じて、現地の医療や教育の現状を直接肌で感じることは非常に貴重な経験であった。日本と海外の医療について知識を共有するためには、日本の医療について英語で説明できるスキルが必要であると強く感じたため、今後はその能力を磨くことを目標にしたい。



シンガポール海外研修

検査技術科学専攻 2 年 山田 美月

この研修に参加しようと思ったきっかけは、去年シンガポール工科大学の学生と交流をしたことである。シンガポールの医療や学校生活について知り、日本とはどう違うのか実際に見てみたいと思った。他にも、シンガポールの医療・健康分野ではデジタル化が進んでおり、日本との違いや、医療従事者がどのように関わっているのかを学びたいと思った。



研修では多くの施設や大学を見学させていただいた。シンガポール国立がんセンターの薬剤部を見学した。入院患者用の薬は病室まで全自動ロボットが運び、かつ薬が中に入っていないときは蓋が閉まらず、閉めた蓋は看護師のみが開けられるという仕組みから薬の入れ忘れや盗難を防いでいることを学んだ。外来患者用の薬剤部では処方箋が、バーコードで管理され、機械が倉庫から薬を取り出す仕組みになっていた。電話で薬を使い始めてからの様子を聞き、続けても良いか判断するシステムを見学した。シンガポールでは薬の配達が進んでおり、患者の家に薬を届けるために電話で様子を聞くことで、患者が病院に来る必要がないことを知った。日本でも広まれば、高齢者の負担を減らせると考えた。

他にも専攻ごとに分かれて見学を行い、検査技術科学専攻である私はシンガポール総合病院病理学棟 The Academia を見学した。ここでは微生物検査では血液培養を一日に 500 件行い、その後、グラム染色して

平板培地に移す流れを学んだ。MRSA の判定は 2017 年から PCR 検査が主流になり、Gene Xpert infinity を用いて 60 分で判定ができていた。また、MALDI-Biotyper sirius で質量分析を行い、1 日に 300 件の菌を同定していた。微生物の同定プロセスが病院ごとに少しずつ異なるため、病院同士で話し合いの場を設けていることも分かった。病理標本作製では、一日 1000 件の標本を作成しており、薄切にはミノ型（回転）ミクロトームが用いられていた。病理診断には pathology scanner SG300 という機械が使われ、標本を読み取り、パソコンで組織の様子を確認していた。チャットで画面を共有することでリアルタイムに意見を交換できることも学んだ。

シンガポールの人々はユーモアと楽しむことを大切にしていると感じた。新人教育でゲーム感覚のテストを行うこと、検査用ロボットにキャラクターの名前を付けることで患者の気分を高めるという考えに触れ、その考え方が新鮮で、自分の視野を広げることができた。SIT の学生が行ったプレゼンテーションも、医療の知識だけでなく楽しむ工夫が施されていた。

今回のシンガポールでの研修を通じて、医療のデジタル化が進んでいることや、日本の医療との共通点・相違点を学ぶことができた。現場で働いている医療従事者の姿を見学したり、話を聞いたりするという貴重な経験から多くの学びを得ることができた。研修を実現するためにご支援いただいた先生方や関係者の皆様、現地でサポートして下さった皆様に深く感謝いたします。この学びを将来、医療現場で活かせるよう、今後の成長に努めたいと思います。



シンガポール海外研修

理学療法学専攻 2 年 梅田 真帆

この研修では異なった価値観や習慣を含めた文化を感じたいと思っていました。そのため、シンガポールでは、現地の学生や先生以外にも街の人との交流を積極的に実践し、現地の食文化に触れたと思っていました。また、昨年 SIT の学生が本学に来了際に、言いたいことがうまく言えず、後悔したため、伝えることをあきらめずに、コミュニケーションをとろうという気持ちで研修に臨みました。



研修では、多くの施設を見学させていただきました。SGH - Sing Health Tower - Physiotherapy では、PT は個別で診察する部屋があり、完全な個室にベッドや軽いトレーニング用具が置いてありました。個室で患者の近況やストレッチを行い、ジムで大きな器具を使ってリハビリを行うという流れでした。一日に最大 17 人の患者を診るため、一人あたり最大 40 分の間診とリハビリの時間が与えられていました。シンガポールでは PT になるときに英語だけでなく中国語を話すことが前提となっていました。患者は PT との時間が終わり次第、ジムを自由に使うことができ、自主的にリハビリに取り組むことができることを知りました。SGH - Cardiac physiotherapy 心臓リハビリでは、一日 4 つのクラスに分かれており、1 クラス 1 時間 15 分ずつ行われています。8 週間のクラスが終わったのち、退院して自己管理をします。患者にモニターをつけて心拍や心電図を確認しながらリハビリに取り組めます。週に 1 回ズームでの講習会があり、薬剤師、看護師、PT、栄養士がそれぞれ薬のこと、病気のこと、エクササイズのこと、食生活指導を行います。この機会は、患者自身の知識が深まり良い効果を生むと感じました。バーグバランススケールをエクササイズの際に、多く用いており、重さを置いていることを学びました。SIT では、PT の専攻 1 学年 170 人です。解剖学を学ぶために ANATOMAGE を使用しており、MRI の画像も見ることができました。解剖学で MRI 画像に触れることはあまりなかったため、立

体的にみることでできて非常に良かったです。また、患者を想定した人形が泣き叫ぶということに驚きました。

現地の方と関わって日本に来たことがある人がとても多いということを知りました。私はおすすめの観光地を紹介しましたが、逆に、私が知らない日本のことを教えてもらいました。日本のことについて私はもっと知る必要があると感じました。シンガポールでは、英語の聞き取りが難しかったです。そのため、相手のボディーランゲージに注目しました。すると、大体の話の内容は理解できました。しかし、病院見学の説明では、難しい単語を多用していたため、ボディーランゲージだけで理解できませんでした。PT になって海外で働こうと思うと、日常生活には困らないかもしれませんが働くときに困る感じました。

今後は、この経験を活かして将来の理学療法、リハビリについて多様な切り口から考えられるようになりたいです。また、コミュニケーションで悔しい思いをしたため、さらなる英語力向上を目指したいです。



シンガポール海外研修

作業療法学専攻 3 年 松田 凛

今回、この研修ではシンガポールでの作業療法について学び視野を広げること、そして実践的な英語力を向上させることを目指して活動に参加した。具体的に学びたいことは、保健医療福祉の制度、病院の様子について、またシンガポールの学生はどのような環境で作業療法学を学び、自分たちとの違いを知ることであった。



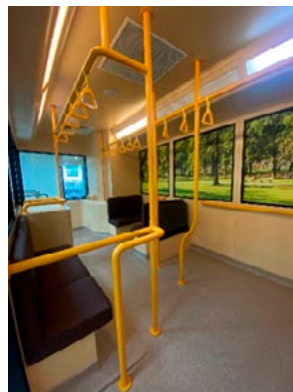
Singapore General Hospital ではシンガポールにおける医療制度、Sing Health についての説明を伺った。Sing Health とは教育、治療、研究をベースとして患者や国民の QOL を向上させようというものであり、いくつかの重要な病院との連携を大切に、各病院が役割を担っている。シンガポールの医療体制はこの Sing Health というシステムの上で成り立っていることを学んだ。専攻別で見学した Sengkang General Hospital では、OT の方に院内を案内していただき、装具の作製や個別リハビリテーションの様子を見学した。充実した設備の中で患者さんの生活に寄り添ったアプローチが印象的であった。例えばリハビリをする部屋にバスの模型や信号機がついた横断歩道があり、より実践的な訓練ができるようになっていた。OCH では患者さんが退院後に回復し地域社会に溶け込めるよう支援するリハビリテーションの様子を見学させていただいた。病院内は窓が大きいので景色が綺麗で自然光が入り、入院していても開放的な雰囲気でも過ごせるように工夫されていた。ADL 室ではシンガポールの一般家庭の環境を模擬されており、扉やキッチン周りなど日本とは異なる点が多く見られ文化の違いを感じた。また、居間から寝室、キッチン、脱衣所まで細かく再現されており日常生活動作訓練を実践的に指導・評価する環境がとても充実していた。Singapore Institute of Technology の学生との交流の中でシンガポールには兵役の制度があるため、大学生の年齢層が幅広く、学ぶ機会が広く平等に与えられていることを学んだ。またお店でジュースや菓子パンなどを買った

際に、含まれている糖分の量によりつけられるランク表示がほとんどの商品にされており、健康への意識の高さとシンガポール人にとって糖尿病が深刻な問題となっていることを感じた。急速に進む少子高齢化や生活習慣病など日本と同様の社会問題を抱えており、シンガポールの政策や今後の経過など医療者として意識する必要性を感じた。

楽しむことを重要視するシンガポール人の特性を理解した政策や SNS アプリを使った若者たちの関心を引く方法は、日本でも取り入れるべきだと思った。

シンガポールの医療制度や文化に触れることで、新しい視点を得ることができとても充実した 10 日間となった。研修中は思うように英語が話せず苦勞したこともあったが、懸命にコミュニケーションを取ろうと努力した経験は、将来にも大いに役立つと感じる。

現地でお世話になった中澤さんや研修施設のスタッフの方々、SIT の学生たち、そして一緒に渡航したメンバーなど多くの人々と交流し、サポートを受けながら学びを深めることができたことは、貴重な財産となると感じた。



活動支援報告

2023年度同窓会からの補助による実習設備の充実

2023年度の補助金は、検査技術科学専攻で以下の通り実習に必要な物品の購入に活用させていただきました。感謝申し上げます。

- ① パラフィンプロック作製装置：手術などで切除された組織を薄切し、病理組織標本を作製するために、組織をパラフィンで固める（パラフィンプロックの作製）装置。老朽化のために買い替え、スムーズに実習が行えるようになりました。
- ② 網状赤血球計数用接眼板 Miller：日常で使用している顕微鏡の接眼レンズ部分に装着し、網赤血球をカウントする実習に使用します。
- ③ 吸引シミュレータ Qちゃん、④ パルスオキシメーター、⑤ 採血駆血帯バンド、⑥ 小型吸引器

※③～⑥はタスクシフト学内実習様備品として購入しました。

①



②



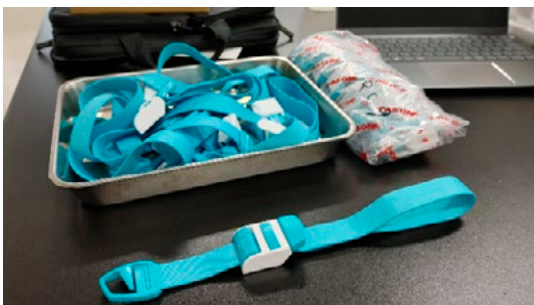
③



④



⑤



⑥



新入生交流会

今年は専攻毎に上級生・教員参加で交流会を実施しました。春のひとときを様々な形で共有して、つながりをつくることができたかと思います。4月20日（土）には理学療法学専攻が1～4年生参加のグループミーティングやバレーボール、イヤホンゲームを、作業療法学専攻は6グループに分かれて松本市内フォトウォークラリーを行いました。また、4月22日（月）には検査技術科学専攻がクイズ大会とグループ交流会を行いました。看護学専攻は4月27日（土）に、上級生企画の信大探検ウォークラリーと、新入生企画のゲーム大会（人間ビンゴ、ジェスチャーゲーム）を行いました。この交流会が大学生活へのあゆみを一歩進める機会となったようです。



▲看護学専攻



▲検査技術科学専攻



▲検査技術科学専攻



▲理学療法学専攻



▲作業療法学専攻

特別講演

令和6年6月29日(土)

6/29(土) 対面による市民公開講座を実施しました。同窓会会員と市民の方に参加いただきました。

「3.11を学びに変える」をテーマに、スマートサブライビジョン・佐藤敏郎先生による講演を行いました。学生・教職員・一般市民が出席し、真摯な質疑が行われました。



卒業祝賀会・優秀学生表彰

令和6年3月21日(火)

感染症対策を設け、令和6年3月21日(火) キッセイ文化ホールにて信州大学松本地区卒業式が行われました。

保健学科では同日午後旭会館にて数年ぶりに対面での卒業・修了祝賀会が行われました。各専攻の成績優秀学生4名と大学院1名、今年度から新たに設けられた若手優秀論文賞4名の証書の授与を行いました。



▲伊澤保健学科長および各専攻・大学院の成績優秀学生のみならず写真左側から 作業療法専攻・志田明日香さん 理学療法専攻・高谷真子さん 看護学専攻・半田真裕子さん 検査技術科学専攻・大澤優樹さん 修士課程・田邊瑞来さん

大学院修了者名簿

令和5年度の大学院修了者のうち医学系専攻保健学分野（博士課程）および医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）修了者は4名で、学位論文は以下の通りでした。

・上條 途夢 さん

Recombinant γ Y278H Fibrinogen Showd Normal Secretion from CHO Cells, but a Corresponding Heterozygous Patient Showd Hypofibrinogenemia (患者の表現型と CHO 細胞の生産能に乖離を認めた変異フィブリノゲン γ Y278H の解析)

・河埜 康二郎 さん

Factors Associated with Continued Employment Among Persons with Mental Disorders: A Retrospective Cohort Study (精神障害者の就労継続に関連する因子：後ろ向きコホート研究)

・山中 英士 さん

Intermuscular coherence during quiet standing in sub-acute patients after stroke: an exploratory study (亜急性期脳卒中患者の静止立位における筋間コヒーレンス：探索的研究)

・黒部 恭史 さん

Use of force-velocity relationship to estimate the one-repetition maximum leg press exercise among young females (若年女性における力-速度関係を用いたレッグプレスの最大挙上重量の推定)

卒業生の声

人生最後まで歩ける足をめざして

井口 めぐみ／看護学専攻 24 期生

私は現在、伊那中央病院フットケア・足病センター（旧創傷ケアセンター）で外来看護師として勤務しています。糖尿病療養指導士やストッキングコンダクターの資格を活かし、糖尿病足病変・褥瘡・虚血肢・うっ滞性潰瘍などの患者さんの日常生活指導やフットケア方法の指導や創傷の処置指導を日々行っています。



「たかが足」と思われがちですが、健康な足がなければ歩行もできず寝たきりになります。爪が厚く伸びていれば踏ん張る力も弱り転倒リスクも高くなります。浮腫みを放置しておけば難治性の潰瘍になったり、蜂窩織炎で入退院を繰り返します。どれも看護師が日々観察し患者さんや家族の個々に合わせたケア方法を繰り返し指導することで予防することができます。足を診る事は生活を見る事であると日々感じています。

私の住んでいる上伊那地域は、当院まで約 20 km 圏内と広範囲の患者さんが通院されています。近年では高齢化により老々介護や独居も多く、移動手段も限られるため通院が困難になる事も多いのが現状です。そのため、外来看護師が訪問看護師やケアマネ等、地域のメディカルとの連携を担う役割もとても重要になっています。最近では電子連絡帳なども活用しながら、地域連携の強化にも力を入れています。住み慣れた地域で、患者さんが QOL の維持向上しながら、人生最後まで歩ける足を目指して、これからも患者さんに寄り添い地域に密着した看護を提供できるよう努めていきたいと思っています。

近況報告

安藤 志歩香／検査技術科学専攻 12 期生

信州大学を卒業し、早いもので臨床検査技師歴 7 年目を迎えました。私は現在、岐阜県の中部国際医療センターの生理検査室で働いています。2022 年に同じ市内にあった



旧病院から移転し、昨年には ISO15189 の施設認定も取得しました。当院の検査科は若いスタッフが多く、7 年目の私も後輩たちを教育する立場となりました。また、昨年には信州大学の学生に向けた就職支援セミナーでお話しさせていただいたり、院内の研修会で講師を務めたりと人前で話す機会が多くなりました。大人数を前に話すということに慣れておらず、人に教えるということの難しさを感じ毎度頭を悩ませています。せっかくなら相手に面白いと思ってもらえる話ができるよう、最近は情報集めのために勉強会に参加したりしています。ここ数年でオンライン開催の勉強会も増え、仕事終わりでも参加しやすくなりました。勉強するうちに興味を惹かれ今は心エコーの認定試験に向けて勉強中です。

と、ここまでで仕事と勉強しかしていないみたいですが、適度に息抜きもしています。新型コロナウイルス感染症の規制も緩和され、旅行にも行きやすくなりました。長期休暇はなかなか取れませんが、近場の観光地に行つてのんびり過ごすのがマイブームです。また同級生の皆と集まって近況など話し合える日を楽しみにして日々頑張ろうと思います。

近況報告

小川恵里／理学療法学専攻 13 期生

社会人になってからの日々はあっという間に過ぎ、気がつけば理学療法士として働き始めて6年目となりました。私は現在、信州大学を卒業後、信州大学医学部附属病院にて働かせていただいています。



学生の頃は自分が働いている姿が全く想像できず、ただ漠然と、“色々な経験ができる総合病院に行きたいな…”と考えておりましたが、実際に就職してみると、考えていた以上に様々な疾患や状況の患者様に出会う機会がたくさんありました。患者さんにとって自分はどんなことができるのだろうか…と、6年目になった今でも力不足を痛感する毎日ですが、優しくユニークな先輩・後輩そして同期に恵まれ、助けていただく中で、様々なことを学びながら臨床を続けられています。自分では考えつかない介入内容のアイデアや、知識・技術を話し合う中で、先輩に限らず後輩からも刺激をたくさんもらっています。

大学時代の友人とも、それぞれの進路やライフステージに変化がある年代ではありますが、直接会ったり電話をしては、近況報告や悩みを話し、励まし合いながら日々を過ごしています。4年間の学生生活を共に過ごした友人は、悩みが尽きない自分にとってかけがえのない存在だと、大学を離れた今だからこそ改めて強く感じております。

今後も、社会人として医療人としてもまだまだ成長していけたらと思っています。目まぐるしく過ぎていく毎日ですが、周りの方への感謝を大切にしながら精進してまいります。

近況報告

小林 郁満／作業療法学専攻 9 期生

在学中から現在に至るまで、信州大学医学部保健学科作業療法学専攻の皆様をはじめ、多くの方々にお世話になり、社会人10年目を迎えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。



「人の役に立ちたい」という思いから、人々の生活に関わる作業療法士を志し、総合病院にて医療と介護の現場に5年間勤務させていただいたのち、市役所に転職して、現在は一般職として高齢者福祉に関わる部署にて勤務しております。

これまでには、介護保険事業所・施設や老人福祉施設等に関する諸業務や介護給付適正化に関する業務、養介護施設従事者等における高齢者虐待に関する業務などを担当し、業務をとおして地域の方々が日々幸せな生活を過ごせるように努めてまいりました。

臨床の頃とは異なり、対個人に関する業務ではなく、法令や制度、事業等の業務が主となり、多様化・複雑化する社会問題への対応もあるため、戸惑いや苦悩することばかりですが、人々の日常生活を支える環境面へのアプローチとして私の立場からできることはないかと日々模索検討しているところです。

学生時代に思い描いていた10年後と現在の状況では、働き方という観点では全く異なる状況ですが、「人の役に立ちたい」という思いは変わらず持ち続けていることができています。

更に10年後の私はどういった姿になっているか全く予測はできませんが、日々「生活」の視点を持ち続け、日々全力に人々の幸せな生活に寄与できればと思います。

総会記録

2024年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会 議事録

日 時：2024年6月29日(土曜日) 15:15から16:00

場 所：信州大学経法学部第二講義室

司 会：奥村伸生保健学科同窓会副会長

出席者：26名

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 開会宣言(奥村伸生副会長)2. 保健学科同窓会長挨拶
川上由行保健学科同窓会長より開会の挨拶があった。3. 保健学科同窓会名誉会長(保健学科長)挨拶
伊澤淳保健学科学科長より挨拶があった。4. 議長選出
臨嶺会の新井慎平氏が選出された。5. 2023年度事業報告および決算報告
下里誠二幹事より2023年度事業報告がされた。
柳澤節子幹事より2023年度決算報告がされた。6. 2023年度特別会計報告
柳澤節子幹事より特別会計報告がなされた。7. 2023年度会計監査報告
鮫島敦子監事より会計監査報告がなされ「通帳、帳簿、証拠書類を監査し適正に処理されていたことを確認した」と報告があった。
審議の結果、ともに質疑はなく、挙手による採決を行った。結果賛成多数により2023年度事業報告、2023年度会 | <p>計報告ともに承認された。</p> <ol style="list-style-type: none">8. 2024年度事業計画(案)および予算(案)
下里誠二幹事より2024年度事業計画(案)について報告があった。
柳澤節子幹事より会費納入状況について報告がなされたのち、2024年度予算(案)について説明があった。
審議の結果、2024年度事業計画(案)及び予算(案)について、質疑はなく、挙手による採決が行われた。結果賛成多数で承認された。9. 議長解任10. その他
連絡事項として、奥村伸生副会長から2024年講演会、Tea-partyについて、また川上会長から保健学科同窓会若手優秀論文賞について説明があった。保健学科同窓会若手優秀論文賞については、伊澤保健学科長からも研究活動の活性化に大きな役割があると考えていると報告された。11. 閉会宣言(奥村伸生保健学科同窓会副会長) <p style="text-align: right;">以上</p> |
|---|--|

令和5年度事業報告

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助<ol style="list-style-type: none">1) 学生図書購入2) 学術国際交流推進(シンガポールのシンガポール総合病院の海外研修プログラム)、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
海外プログラム学生受け入れへの支援(12月シンガポール工科大学からの受け入れ11名)3) 特別講演の開催
日 時：令和5年6月24日(土)13:00～15:00
演 題：「生きてるってシアワセ！」
講 師：全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長 大谷貴子さん
場 所：経法学部第2講義室
(Zoom併用のハイブリッド開催)4) 実習指導者連絡協議会開催補助5) 卒業式・学位記授与式<ol style="list-style-type: none">・祝賀会補助・卒業記念品の贈呈(集合写真) | <ol style="list-style-type: none">・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)6) 入試広報活動補助<ol style="list-style-type: none">・オープンキャンパス補助・各特別選抜試験および一般選抜試験補助7) 学生課外活動支援<ol style="list-style-type: none">・新入生合宿研修補助(専攻ごとの新入生歓迎交流会イベントに補助)・学生への課外活動支援8) 学習環境整備<ol style="list-style-type: none">・学生支援(検査技術科学専攻)
パラフィンブロック作製装置・網状赤血球計数用接眼版Miller・タスクシフト実習用備品等9) 信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞
令和6年3月21日卒業祝賀会会場にて表彰式を行った。<ol style="list-style-type: none">・看護学専攻 石田 史織
Insufficient Social Support for Fathers of Children with Developmental Disorders. |
|---|--|



- ・作業療法学専攻 佐藤 正彬
Difference Between the Effects of Peripheral Sensory Nerve Electrical Stimulation on the Excitability of the Primary Motor Cortex: Examination of the Combinations of Stimulus Frequency and Duration.
 - ・理学療法学専攻 小宅 一彰
Comparison of the Sit-up Test and Head-up Tilt Test for Assessing Blood Pressure and Hemodynamic Responses in Healthy Young Individuals.
 - ・検査技術科学専攻 佐々木 奏子
Extracellular Stimulation of Lung Fibroblasts with Arachidonic Acid Increases Interleukin 11 Expression Through p38 and ERK Signaling.
2. 保健学科同窓会分科会支援
- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
- 1) 同窓会ホームページの運営

- 2) 同窓会だより第21号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①令和5年度総会の開催
令和5年6月29日(土)
 - ②理事会の開催
令和6年6月19日(水)18:30～20:00
 - ③幹事会の開催
令和6年3月12日(火)17:30～19:30 212教室
令和6年5月22日(水)17:30～20:20
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
信州大学同窓会連合会関係：
 - ・令和5年7月8日(土)第38回同窓会連合会役員会
14:00～15:30 旭会館3F 大会議室(川上会長)
 - ・令和6年3月2日(土)信州大学同窓会連合会役員会
14:00～15:30 旭会館3F 大会議室(川上会長)信州大学校友会関係：
 - ・令和5年7月5日(水)第11回信州大学サポーターズ
クラブ理事会(川上会長)
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 特別会員の最終講義へのお祝い
 - ・令和5年該当なし

令和6年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
- 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進(シンガポールのシンガポール総合病院への研修、招聘講演、海外研修受け入れへの支援)
 - 3) 特別講演の開催
日 時：令和6年6月29日(土)
午後13:00～15:00
会 場：信州大学経法学部第2講義室
講 師：佐藤 敏郎 先生
(スマートサブライビジョン 特別講師)
演 題：「3.11を学びに変える」
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
 - 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助(専攻ごとの新入生歓迎イベントに対して補助)
 - ・学生への活動支援
 - 8) 学習環境整備
 - ・学生支援：理学・作業療法学専攻

- 9) 信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞
 - ・卒業祝賀会内で表彰式を行う
2. 保健学科同窓会分科会支援
- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
- 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第22号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①令和6年度総会
日時：令和6年6月29日(土)
15:00～16:00
場所：経法学部第2講義室
ティーパーティー：
6月29日16:00から
旭会館2階ライジング・サン
 - ②理事会の開催：年1回(5～6月)
 - ③幹事会の開催
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援
 - 7) 特別会員最終講義のお祝い

信州大学医学部保健学科同窓会会則・細則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学部の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という。)の在学生及び卒業生
 - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という。)の在学生及び修了生
- 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 18名
(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;
大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。

- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、次の任期とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員の選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めたとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めたとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
- この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- この会則は、平成19年4月1日から施行する。
- この会則は、平成21年4月1日から施行する。
- この会則は、令和5年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

1. 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学
院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万
円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出が
あった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることが
できる。
2. 本本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとす
る。
ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、
同窓会理事会の承認を必要とする。
- (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関
すること。……………3万円
- (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関す
ること。……………2万円
- (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に関するこ
と。……………1万円
- また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の
大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりと
する。ただし、この枠を超えて使用する必要が生じたと
きは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関
すること。……………1万5千円

- (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関す
ること。……………2万円
- (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に関するこ
と。……………5千円
- 保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課
程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部
保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
3. 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
4. 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担
当幹事が通帳・印鑑を管理する。
5. 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに
同窓会費支払者リストを作成する。
6. 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書
を作成し、監査を受ける。
7. 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

令和6年度 同窓会役員

名誉会長：伊澤 淳 (医学部保健学科)	検査技術科学専攻 4 名	大学院 (後期) 1 名
会 長：川上 由行 (医学部保健学科)	工 絢 (検査技術科学専攻学生)	古川 智巳 (博士後期課程院生)
副会長：奥村 伸生 (医学部保健学科)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	幹 事：樋口由美子 (医学部保健学科)
萩原 綾乃 (あずみの里)	平 千明 (医学部保健学科)	山内 一由 (医学部保健学科)
理 事：	新井 慎平 (医学部保健学科)	中込さと子 (医学部保健学科)
看護学専攻 8 名	理学療法学専攻 2 名	下里 誠二 (医学部保健学科)
関 浩美 (医学部附属病院)	高嶋 斗夢 (理学療法学専攻学生)	柳澤 節子 (長野県看護協会)
小澤 悦子 (無所属)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	百瀬 公人 (医学部保健学科)
松本 恵美 (無所属)	作業療法学専攻 2 名	横川 吉晴 (医学部保健学科)
白濱 滯 (医学部附属病院)	小林 琴美 (作業療法学専攻学生)	務台 均 (医学部保健学科)
青柳 陽子 (医学部附属病院)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	監 事：重藤 聖子 (医学部保健学科)
中込さと子 (信州大学医学部保健学科)	大学院 (前期) 1 名	中村 慶佑 (医学部保健学科)
水藤 愛子 (看護学専攻学生)	白井 秀弥 (博士前期課程院生)	事務局：中山 秀子
松永 朱莉 (看護学専攻学生)		

編・集・後・記

今年の夏はパリオリンピック、パラリンピックに注目した方々も多かったかと思います。大会施設の利便性はメディアで紹介されていましたが、バリアフリーで検索するとパリの課題が報道されていました。地下鉄で車いす利用は9% (東京は98%)、石畳の街では移動の障壁は多く、改修は進んでいないようです。

海外から観光客が増えた日本の街はどうか、そんなことが気になりました。 (編集人 Y)